

イノシシ対策の基礎知識

■ イノシシの特徴 ■



- 本来は里山の広葉樹林等を中心に生息
- 雑食性で木の実、タケノコ、ミミズ、昆虫、その他人の食べるものはほぼ全て食べる
- 本来は警戒心が強く、慎重な動物で、農地へは夜間に接近、侵入
- 犬と同等以上の鋭い嗅覚
- 学習能力が高い(エサの場所を記憶する)
- 鼻先で**60kg**の重さを持ち上げることが可能
鼻先を使って地面を掘り起こす
- 鼻が入れば狭いすき間から侵入し、
潜り込みが得意
- 柵内に良いエサを見つけると、
1.0m程度の柵を飛び越えることが可能
- メスは2歳頃から毎年出産可能
年1回(春～初夏)、子どもを4～5頭出産

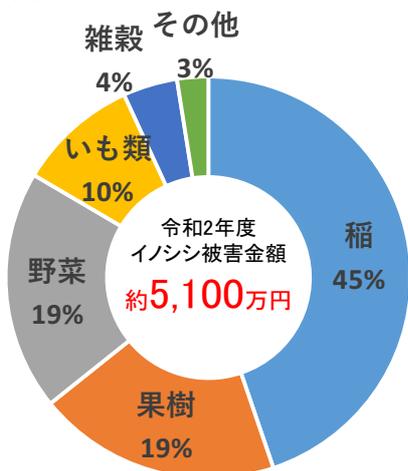
【ニホンイノシシ Wild Boar】

- ▶ 学名: *Sus scrofa*
- ▶ 分布: 本州・四国・九州
奄美・沖縄には亜種の
リュウキュウイノシシが分布
- ▶ 体長: 120～150cm
- ▶ 体重: 50～100kg
生まれたときは約500gほど、
1年で20～30kgほどに成長

■ 被害状況 ■

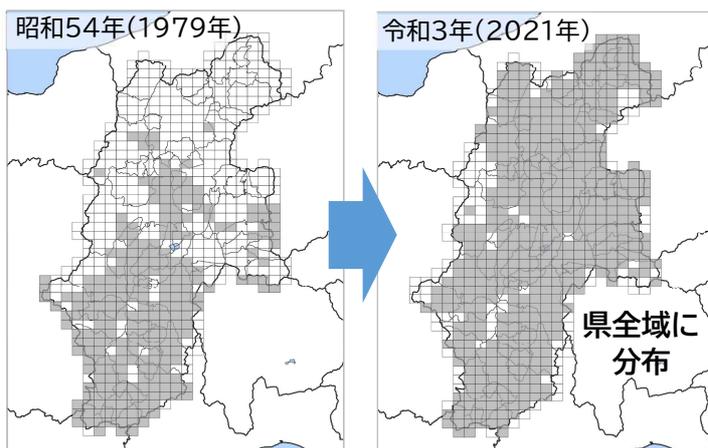
長野県では、令和2年度のイノシシによる被害額は約5,100万円でした。

作物別では、水稻や果樹、野菜への被害が多く、次いでいも類、雑穀となっています。



■ 県内のイノシシの生息分布 ■

県の北信地域等には、江戸時代に造られたイノシシ除けの石垣(シシ垣)の跡があり、かつてイノシシは県全域に生息していたと考えられています。その後、明治から大正にかけて捕獲活動の増加等により生息分布が縮小し、昭和54年には中南信地域を中心に分布していましたが、それ以降は分布を北東部に回復させ、現在は県全域に分布しています。



被害対策 4つのポイント

イノシシの被害を減らすには、以下のポイント1~4を集落ぐるみで総合的に取り組むことが効果的です。

ポイント 1

イノシシ（相手）をよく知る

- まず、イノシシの習性をよく知ることが、被害を減らす近道です。集落で勉強会を開きましょう。

ポイント 2

イノシシを集落に寄せ付けない（環境管理）

- 野菜くず、廃果、米ぬか、被害を受けた作物、竹ヤブ等の放置は、イノシシのエサとなり、集落内での無意識な餌付けにつながります。
- イノシシを集落に寄せ付けないため、野菜くず等の適切な処理、収穫しない果樹の伐採、稲刈り後の起耕等を行って、集落内のイノシシのエサを減らしましょう。
- 集落周辺の耕作放棄地やヤブ化した山林、竹ヤブは、イノシシの隠れ場となります。ヤブ払いを行って、見通しを良くしましょう。

ポイント 3

防護柵で囲う

- イノシシの習性を踏まえた防護柵で囲って侵入を防止しましょう。
- 適切な柵の選定、正しい方法での設置、こまめな維持管理が重要です。

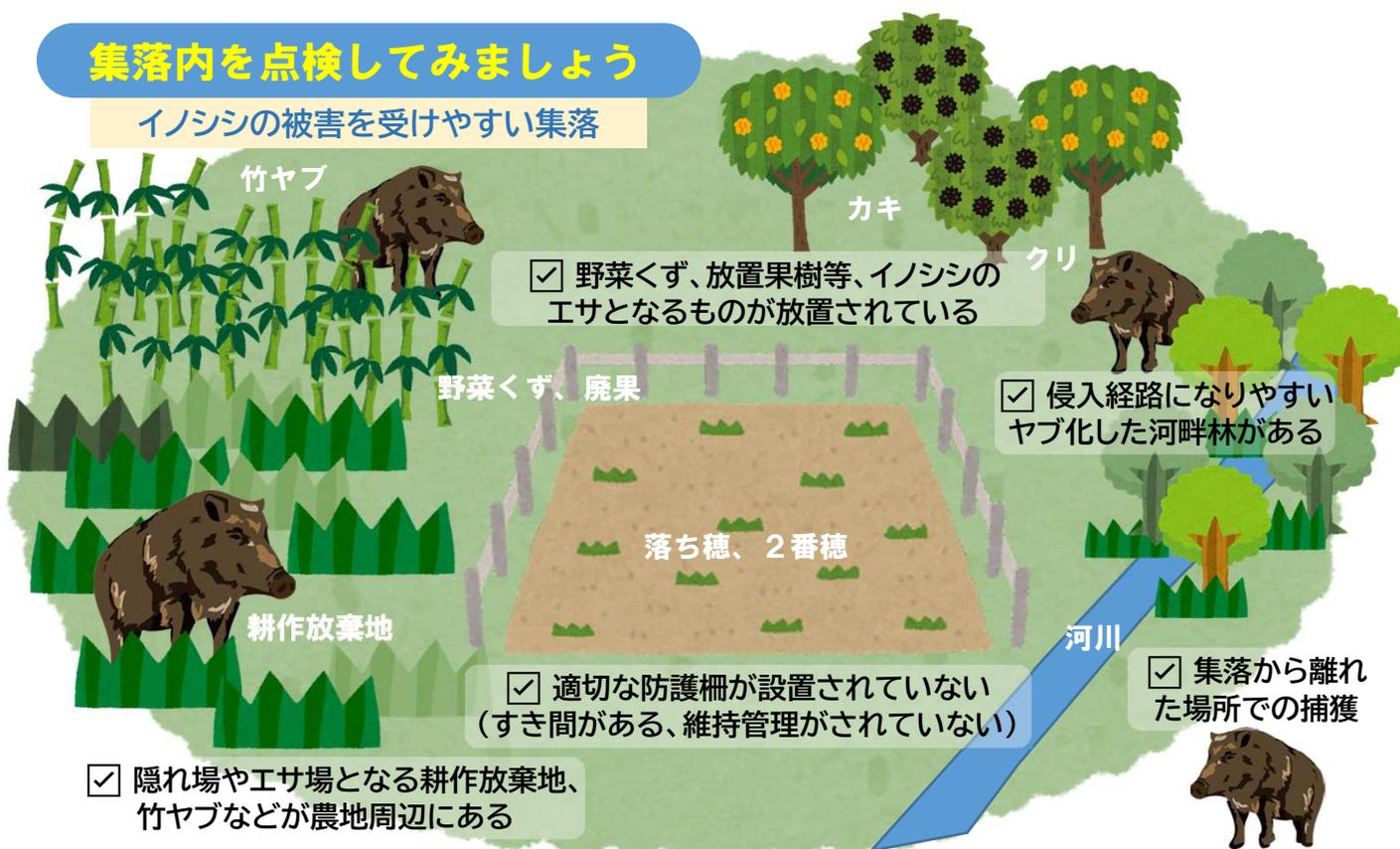
ポイント 4

適切な捕獲

- 農地近くでの加害個体を狙った捕獲が効果的です。
- イノシシは繁殖力が高く、捕獲のみでは対策として不十分です。環境管理や防護柵設置とあわせた対策が重要です。

集落内を点検してみましょう

イノシシの被害を受けやすい集落



■ 主な防護柵の種類と特徴 ■

ワイヤーメッシュ柵



【特徴】

- ・比較的安価
- ・維持管理が容易
- ・耐久性が高い。
- ・運搬、設置の労力がかかる。

【ポイント】

- ・地際はしっかりと埋め込むか外側に折り返す。
- ・上部を少し外側に折り返すと乗り越えられにくい
- ・高さ1m程度、網目は10cm以下。

電気柵



【特徴】

- ・比較的安価
- ・設置、撤去が容易
- ・漏電防止のための除草管理が必要
- ・乾いた地面や舗装路のような電気を通しにくい場所への設置は不適。

【ポイント】

- ・電圧5000V以上が維持されているかこまめにチェックする。
- ・電線は地面から20cm間隔で2～3段。

トタン柵



【特徴】

- ・比較的安価で資材が入手しやすい。
- ・設置が比較的容易
- ・市販のトタンは耐久性が低い。
- ・地際にすき間ができやすく、こまめな点検が必要

【ポイント】

- ・目隠し効果があるため他の柵と併用すると効果がより発揮される。
- ・つなぎ目や地際の際間をなくす。
- ・高さ80cm～1m程度

金網柵



【特徴】

- ・耐久性が高い。
- ・設置、撤去、修理に労力がかかる。
- ・資材や破損した場合の費用が高い。

【ポイント】

- ・集落柵に利用される場合が多い
- ・落枝、倒木等による破損に注意
- ・地際はしっかりと埋めるか折り返す。
- ・高さ1.5m以上、網目は10cm以下

複合柵



トタン+電気柵



金網柵+電気柵

【特徴】

- ・イノシシ、シカ、サル、クマなど
複数の動物の侵入防止が可能
- ・設置、撤去、修理に労力がかかる。
- ・資材や破損した場合の費用が高い。

【ポイント】

- ・被害を出している動物をしっかりと特定し、その動物の習性、柵の特徴をふまえて組合せることが重要

■ 集落ぐるみの総合的な取組みが効果的 ■

イノシシの被害を減らすには、前のページで挙げたポイント1~4の対策を
集落ぐるみで総合的に取り組むことが効果的です。

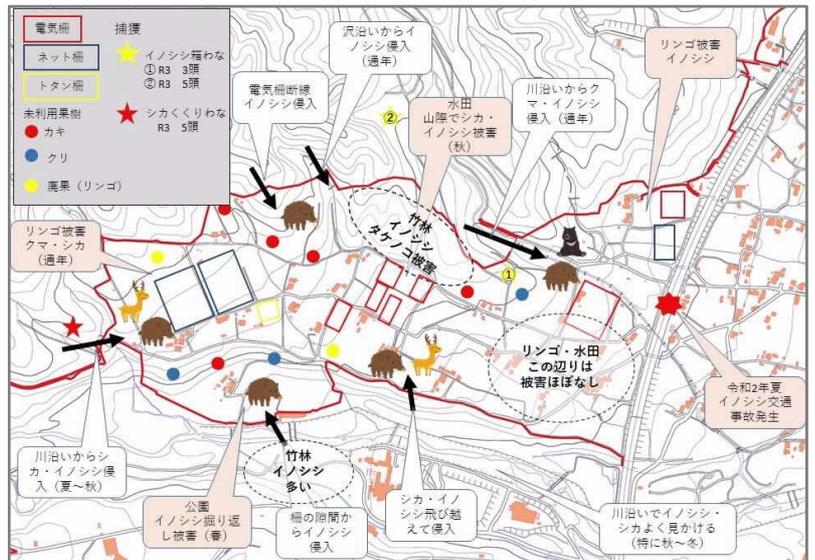
集落の「被害情報マップ」を 作成しましょう

集落内の被害場所、生息状況、対策等を表示した地図を作成(見える化)して、対策の計画、実施、見直しを行いましょ。

「被害情報マップ」を活用した 集落ぐるみの取組例

- ・イノシシに侵入されにくい環境管理
- ・集落の広域を囲う防護柵の設置、維持管理
- ・捕獲活動への非狩猟者の協力(見回り等)

すぐに集落ぐるみでの対策が難しい場合は、まず研修会への参加などでイノシシのことを知り、イノシシを集落に引き寄せている原因を考えることから始めましょう。



被害情報マップの作成例

【ご相談ください】

被害対策の勉強会や被害情報のマップ作りなど、各地域の
県現地機関で構成される野生鳥獣被害対策チームが助言、
支援、情報提供等を行っていますので、ご相談ください。

Q & A

Q: ヤブ払いや草刈りはイノシシ対策に効果はあるの？

A: イノシシは警戒心が強い動物であるため、ヤブなどの身を隠せる場所があると安心して集落に近づきます。また耕作放棄地は、イノシシが好んで生息しています。このため、集落周辺のヤブ払い(緩衝帯整備)を定期的に行い、見通しを良くしておくことは、イノシシを集落に近づかせないために効果的です。

Q: 柵を設置した当初は効果があったが、今は効果がなくなった…

A: イノシシなどの動物は、なんとかして柵のすき間等から農地に侵入しようと考えています。1度侵入されてもあきらめず、すき間をなくす等、柵の構造を繰り返し改善していくことが重要です。電気柵の場合は電圧が下がっていないか定期的にチェックをしましょう。

Q: 柵が設置できない河川や道路からの侵入を防ぐ方法はあるか？

A: 侵入場所が限定されている場合は、その場所でワナによる集中的な捕獲を実施したり、ヤブ払い等により侵入しにくい環境に整備したり、他の対策を組み合わせると効果的です。

Q: 音やニオイ、光による対策が効果的と聞いたが…

A: 動物は初めての物に警戒しますが、しばらくすると慣れてしまいます。

【慣れが生じる対策例】人の髪の毛、オオカミやライオン等の糞尿、オオカミの鳴き声、ラジオ等